

平成21年度 健康維持増進住宅研究委員会 議事要旨

1. 日時： 平成22年3月24日（水） 13：30～15：30
2. 場所： スクワール麹町 3階 錦華
3. 出席者： 村上委員長、坊垣副委員長、吉野部会長、田辺部会長（代理：秋元幹事）、小泉部会長、伊香賀部会長、岩村委員、石川委員、信田委員、東嶋委員、米田委員、秋林委員、村木委員（代理：小林氏）、富田委員、三岡委員、佐々木委員（代理：藤村氏）橋本委員、鈴木委員（代理：木下氏）、渡邊委員（代理：佐藤氏）、川本住宅局長
〔オブザーバー〕（独）都市再生機構、（独）住宅金融支援機構、
（財）ベターリビング、（財）住宅リフォーム・紛争処理支援センター、（財）日本住宅・木材技術センター、健康維持増進住宅研究コンソーシアム
〔事務局〕国土交通省住宅局住宅生産課、一般社団法人日本サステナブルビルディングコンソーシアム、（株）野村総合研究所
4. 議事：
 - （1）各部会等の活動報告
 - 1）健康影響低減部会
 - 2）健康増進部会
 - 3）設計部会
 - 4）健康コミュニティ推進部会
 - （2）普及促進委員会活動報告
 - （3）海外視察報告
健康維持増進住宅海外調査
 - （4）健康維持増進住宅構成要素リストの紹介
 - （5）質疑及びフリーディスカッション
 - （6）今後の進め方について

5. 議事概要：

議事に先立ち、国土交通省川本住宅局長、村上委員長より挨拶があった。

〔川本住宅局長あいさつ〕

これまでの3年間の研究により、健康に影響を与える要因の整理や、健康維持増進住宅のための構成要素のリストアップ、あるいは住宅とコミュニティの関係等といった成果をあげた。

住宅市場を取り巻く環境は非常に大きく変化しており、住宅政策についても転換期であり、政策全体の方向づけというものを改めて行う時期になってきていると思っている。

その意味で、住宅を単なる箱ではなくて暮らしの場として見る、こういった研究委員会の成果というのは、我々も今後の政策に生かして参りたい。

[村上委員長]

断熱性能がもたらす省エネの便益と省エネ以外の便益に関して、居住者の観点からは、光熱費削減以外にも、健康性向上、快適性向上、あるいは遮音性向上等いろいろなベネフィットがある。

また、行政・社会的な観点からは、化石エネルギーの輸入量の減少や、CO₂排出削減、雇用の創出、産業活性化の促進等のベネフィットがある。

これらベネフィットのうち、健康性について、疾患率の低下を貨幣価値に換算し、経済的に評価しようとしている。

第二フェーズでは CASBEE-健康のようなものによる評価や、経済性評価についても手がけて行きたい。

(1) 部会の活動報告（資料5～8）

4部会の部会長（健康影響低減部会：吉野部会長、健康増進部会：秋元部会幹事、設計部会：小泉部会長、健康コミュニティ推進部会：伊香賀部会長）から、各部会の平成19～21年度の活動及び今後の課題等について報告された。

[質疑応答]

健康住宅というのはこれまで既往の研究なり成果があるが、それらとこの研究について何が違うのか、新しいのかをイメージしやすいキャッチフレーズを期待している。

→健康維持増進という言葉自体がこれまでにない新たな概念である。また、何が新しいかということについては、この3年間の活動を通じて健康維持増進住宅について定量化する手立てが得られてきたことである。

(2) 普及促進部会（資料9）

坊垣副委員長から、平成19～21年度の活動として、4回のシンポジウム、入門書（健康維持増進住宅のすすめ）の出版、2回のアイデアコンペ、2回の海外調査、コンソーシアムの設立運営について報告された。

(3) 海外視察報告

秋元部会幹事から、イギリス、オランダの健康住宅の評価システムについて、その特徴を明らかにするため、海外調査を行った結果について報告された。

(4) 健康維持増進住宅構成要素リストの紹介

小泉部会長から健康維持増進住宅構成要素リスト（案）の紹介があった。基本的にエンドユーザー志向のリストにすることを目指し、議論を進めている。内容をさらに精査していくことが必要で、もう少し分かりやすく解説するようなマニュアル的なものを作成することが今後の課題であると報告された。

(5) フリーディスカッション (主な意見)

健康維持増進住宅構成要素リストであげられている項目を実現するには、今の日本の狭い居住面積では、達成が難しいと思う。理想を求めれば求めるほど広さが必要だと思うが、居住面積との関係はどのように考えているのか？

→基本として最低限あるべきものと推奨や選択的なレベルのものを分類し、面積的なグレードにも対応できるような形としている。

健康維持増進住宅構成要素リストについて、「基本」の項目は本当に必要なのか？健康維持増進住宅以前の基本のように思われる。

→現実には基本というレベルに到達できていない住宅も少なくない。そのような住宅、もしくは居住者に対してのメッセージという観点から、「基本」の項目を記載している。

モデル住宅の建設について、具体的な計画があれば教えてほしい。

→アイデアコンペ等の成果も活かしながら、実現に向けて取り組んでいきたい。

(6) 今後の進め方について (資料10)

研究ロードマップの説明があり、今後の取組とスケジュールを確認した。

以上